

イラク国クルド人自治区教育省関係者に対する研修「緊急時の学校のあり方」を行いました (2016/9/12-9/16)

テーマ：学校安全、イラク国クルド自治区、緊急時の対応

場所：災害科学国際研究所 1 階多目的ホール、石巻市、311 せんだいメモリアル交流館、JICA 東北

2016 年 9 月 12 日～16 日、国際協力事業団（JICA）東北事務所と本研究所防災教育国際協働センターの共同主催として、イラク国別研修「イラクにおける緊急時の学校の在り方」が実施されました。イラク国クルド人自治区から教育省、地方教育事務所関係者 5 名が参加しました。

イラク国クルド人自治区では、2014 年 6 月にイスラム国がイラクに侵攻して以降、これまでに約 100 万人近くの国内避難民（IDP）が押し寄せ、教育施設である学校が避難所として使用されたことにより通常授業の実施が困難になりました。紛争後と災害後では様相は異なるものの、国際的な緊急時の教育セクター支援のためのミニマムスタンダードでは、紛争や災害による影響を受けた学校での教育の継続と学校の危機対応等について共通したアプローチが示されています。今回の研修は、イラク側からの要望により、東日本大震災の津波被災地の学校における児童生徒の避難誘導に関する学校の対応、避難所運営や復旧復興期の教育のあり方について学び、日本の経験を紛争の影響を受ける自国地域の学校対応のあり方の改善に向けた示唆を得ることを目的として、企画、実施されました。

宮城県訪問に先立ち、一行は福島県を訪問し、福島県教育委員会から原子力発電所事故に対する学校対応や放射線教育、心のケアについて学んだ後、13 日午後に仙台市に到着し、本研究所を訪問しました。本研究所では、まず 3D 映画「大津波」を鑑賞し、映像から津波災害についての理解を深めた後、佐藤健教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）による講義「東日本大震災における学校の対応について」を受けました。14 日には、石巻市において石巻みらいサポートの協力により被災した石巻市街のまち歩きを行い、同日午後には石巻市立湊小学校の津波避難訓練を参観し、児童や教員とともに第 3 次避難場所である館山への避難を見学しました。15 日には、石巻市立万石浦小学校を訪問し、同校のテイラー文庫を訪問した後、震災時の学校避難所における学校と地域の連携、石巻市の学校防災指針について村岡太教頭と意見交換を行いました。その後、仙台市の 311 せんだいメモリアル交流館にて、わしん倶楽部の協力により防災ゲーム、クロスロードを体験し、津波災害時の学校や教員の対応に関する討議から自国の紛争下の学校や教員の危機対応へと議論を発展させました。最終日には、桜井愛子准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）のコーディネートの下、訪問の振り返りと総括が行われました。研修員は、災害、紛争にかかわらず、子どもの安全を守るための学校の役割、特に学校の危機対応能力向上の重要性を学ぶことができたことが、今回の研修の最大の成果であることが確認されました。さらに、学校危機対応マニュアルの作成、危機対応のための学校運営の改善、教員研修の実施等が、イラク国クルド地域で実践可能なアプローチであり、帰国後実現に向けて努力していきたいとの意欲が示されました。

文責：桜井 愛子（情報管理・社会連携部門）

（次頁へつづく）



湊小学校での避難訓練の参観



万石浦小学校でのタイラー文庫訪問



せんだい3.11メモリアル交流館で
説明をうける様子



総括での議論の様子